

2023年卒
Vol.02

11月後半時点の就職意識調査

キャリアス就活2023 学生モニター調査結果 (2021年12月発行)

コロナ禍が長期化する中で、2023年卒学生の就職戦線の見方や就活準備状況は、先輩たちに比べてどのように変化しているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、11月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちよりも「やや楽になる」が前年から急増 (6.0%→48.8%)
- 「厳しい」と「楽」が拮抗。コロナ禍の見通しにより見方が割れている

2. 11月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」30.0%。前年より早いペースで決定
- 1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」。IT関連が上位を占める

3. 企業選びのこだわり度合い

- 「社風・人に強くこだわる」57.5%、「企業規模に強くこだわる」12.3%
- 「勤務地」にこだわる学生が前年より増加 (計 59.7%→68.6%)

4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」17.6%、「大手企業」37.4%。大手志向の学生が3年連続で減少

5. 就職活動準備状況

- 11月までの就活準備は「自己分析」85.2%、「業界研究」78.2%、「企業研究」74.4%など
- 就職準備イベントへの参加経験は、「オンライン形式」95.6%、「会場型」52.9%。前年より増加

6. インターンシップ等(※)の参加状況

- モニター全体の90.6%が参加経験あり
- 平均参加社数8.6社。その中で、就職したいと思った企業は2.8社

7. 今後のインターンシップ参加予定

- 全体の9割近くが参加の意向を示す
- 参加したい時期は「1月」が最多。「対面・オンラインの両方に参加したい」80.1%

8. コロナ禍での大学生活への感じ方

- コロナ禍で「満足な大学生活が送れていない」約7割。「自己PRの内容に困りそう」増加

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,124人(文系男子389人、文系女子313人、理系男子284人、理系女子138人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2021年11月15日~24日
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

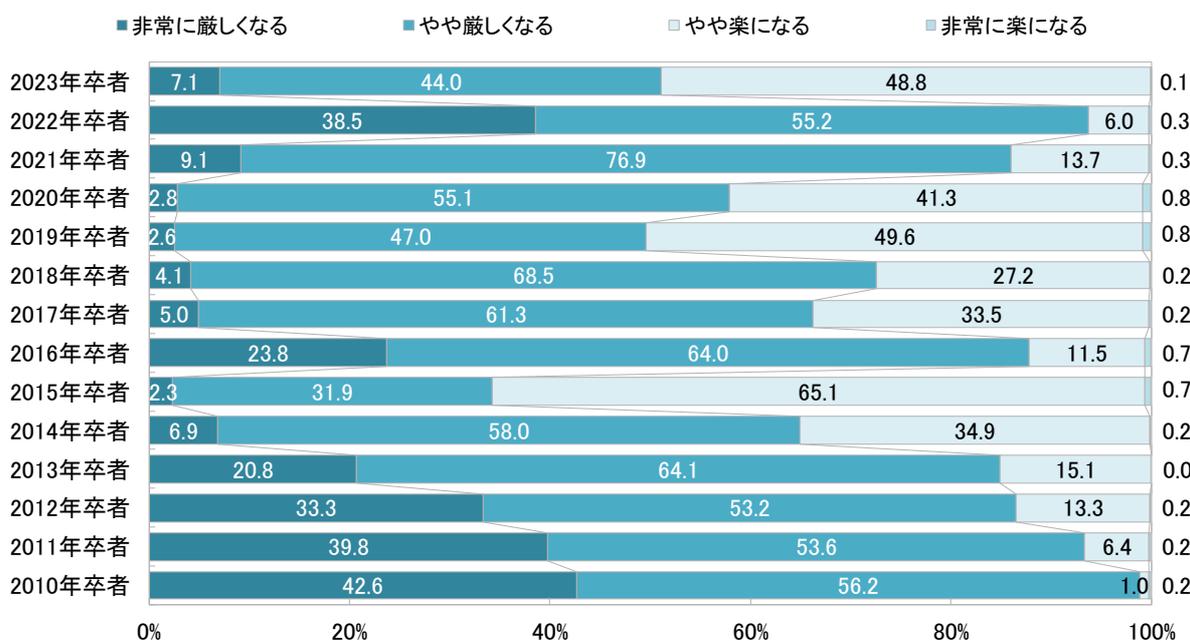
1. 就職戦線の見方

2023 年卒予定の就活生は、自分たちの就職戦線が 1 学年上の先輩たち (2022 年卒者) に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」7.1%、「やや厳しくなる」44.0%で、厳しくなると見ている者の合計は 51.1%。前年同期調査では 9 割を超えていたが (計 93.7%)、大幅に減少した。代わりに「やや楽になる」が急増し (6.0%→48.8%)、「厳しくなる」と見ている学生と、「楽になる」と見る学生がほぼ半々で、見方が分かれた。

「楽になる」と回答した学生のコメントを見ると、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を根拠に挙げる声が目立つ。11 月中旬の調査開始時は全国的に感染が落ち着いており、政府の行動制限緩和案が連日報道されていたことで、見通しの明るさを感じる学生が多かったようだ。インターンシップや就活準備イベントの対面実施の増加など、具体的な内容を挙げる学生もいた。

逆に「厳しくなる」と見る学生からも、コロナに言及する声は少なくない。長引くコロナ禍による業績低迷や採用数減少を懸念する声が目につく。オンライン化による応募者増で競争が激化するのではと警戒する学生も見られた。志望業界なども含め、目指す企業群によっても見方は左右されそうだ。

<就職戦線の見方>



■「厳しくなる」と見る理由

- コロナ禍の影響により採用人数を減らしている業界があるため。 <文系男子>
- オンラインが主流となり、地方の学生が首都圏の企業を受けるハードルが下がっている。そのため、倍率が高くなると考えている。 <理系男子>
- インターン参加者の優遇を行う企業が増え、早いうちから内定者を決めてしまう企業が増えているため。 <理系女子>

■「楽になる」と見る理由

- 新型コロナウイルスの感染状況も収まりつつあり、経済の回復が見込めると思ったため。 <文系男子>
- オンライン就活に関するノウハウがたまりつつあるため、1 学年上の先輩たちに比べると楽になるような気がしています。 <理系男子>
- 対面でインターンなどを行う企業も増えてきている。対面で雰囲気を知れる利点と、オンラインでどこでも参加できる利点の双方を活用して就職活動ができると思う。 <文系女子>

2. 11 月後半時点での志望業界

志望業界について尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が30.0%。前年同期調査(27.3%)を上回り、前年の学生よりも早いペースで志望を固める傾向がうかがえる。一方で、「決まっていない」との回答もやや上昇しており(21.4%→23.0%)、今後の活動を通して業界研究を進め、志望を定めていこうとする学生も一定数見られる。

「なんとなく決まっている」との回答も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねたところ(40業界から選択)、最も多かったのは「情報・インターネットサービス」(20.8%)。ここに「情報処理・ソフトウェア」(19.4%)が続き、前年同様、今期も序盤からIT人気が目立つ。3位は「素材・化学」(16.6%)だが、理系学生において特にポイントが高い(理系女子32.2%、理系男子28.3%)。IT業界が文理問わず上位に位置しているのとは対照的だ。

<志望業界の決定状況>

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	30.0	27.3	27.5	21.7	41.5	31.9
なんとなく決まっている	47.1	51.3	48.1	46.3	44.4	51.4
決まっていない	23.0	21.4	24.4	31.9	14.1	16.7

<志望業界(上位 20 業界)>

		※5つまで選択 (%)								
全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	情報・インターネットサービス①	20.8	銀行	28.6	マスコミ	27.2	素材・化学	28.3	医薬品・医療関連・化粧品	34.8
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト②	19.4	調査・コンサルタント	21.4	情報・インターネットサービス	19.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	26.6	水産・食品	33.9
3	素材・化学⑥	16.6	情報・インターネットサービス	20.1	水産・食品	16.4	情報・インターネットサービス	24.6	素材・化学	32.2
4	調査・コンサルタント⑦	16.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.1	電子・電機	23.0	建設・住宅・不動産	19.1
5	水産・食品②	16.3	商社(専門)	18.0	銀行	14.1	自動車・輸送用機器	19.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.4
6	建設・住宅・不動産⑤	15.5	建設・住宅・不動産	17.3	調査・コンサルタント	13.1	調査・コンサルタント	15.2	情報・インターネットサービス	16.5
7	銀行④	14.9	運輸・倉庫	16.7	建設・住宅・不動産	13.1	水産・食品	15.2	官公庁・団体	14.8
8	医薬品・医療関連・化粧品⑪	13.6	商社(総合)	16.7	官公庁・団体	12.2	医薬品・医療関連・化粧品	15.2	精密機器・医療用機器	13.9
9	マスコミ⑧	12.9	官公庁・団体	13.9	医薬品・医療関連・化粧品	11.3	精密機器・医療用機器	14.8	エネルギー	13.0
	電子・電機⑨	12.9	マスコミ	13.3	その他サービス	10.8	建設・住宅・不動産	13.5	調査・コンサルタント	12.2
11	官公庁・団体⑨	12.1	保険	12.2	通信関連	10.3	エネルギー	13.5	電子・電機	11.3
12	エネルギー⑬	11.8	エネルギー	11.2	エネルギー	9.9	機械・プラントエンジニアリング	13.5	機械・プラントエンジニアリング	11.3
13	運輸・倉庫⑫	10.5	信販・クレジット・ファイナンス	10.5	運輸・倉庫	9.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	10.7	マスコミ	8.7
14	商社(総合)⑬	10.4	水産・食品	10.2	商社(総合)	9.9	官公庁・団体	8.6	自動車・輸送用機器	8.7
15	自動車・輸送用機器⑮	10.3	通信関連	9.9	ホテル・旅行	9.9	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.8	農業・林業・鉱業	8.7
16	商社(専門)⑰	9.6	証券・投信・投資顧問	9.9	教育	9.4	運輸・倉庫	7.4	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.8
17	通信関連⑰	8.9	電子・電機	8.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣	8.9	通信関連	7.4	通信関連	7.0
18	精密機器・医療用機器⑳	8.1	素材・化学	7.8	電子・電機	8.5	商社(総合)	6.1	銀行	5.2
19	機械・プラントエンジニアリング⑱	6.8	エンターテインメント	7.5	保険	8.0	農業・林業・鉱業	5.3	エンターテインメント	5.2
20	保険⑯	6.5	信用金庫・労働金庫・信用組合	7.1	素材・化学	7.0	商社(専門)	4.5	商社(総合)	4.3
				7.0	商社(専門)	7.0	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	4.5	印刷・パッケージ	4.3

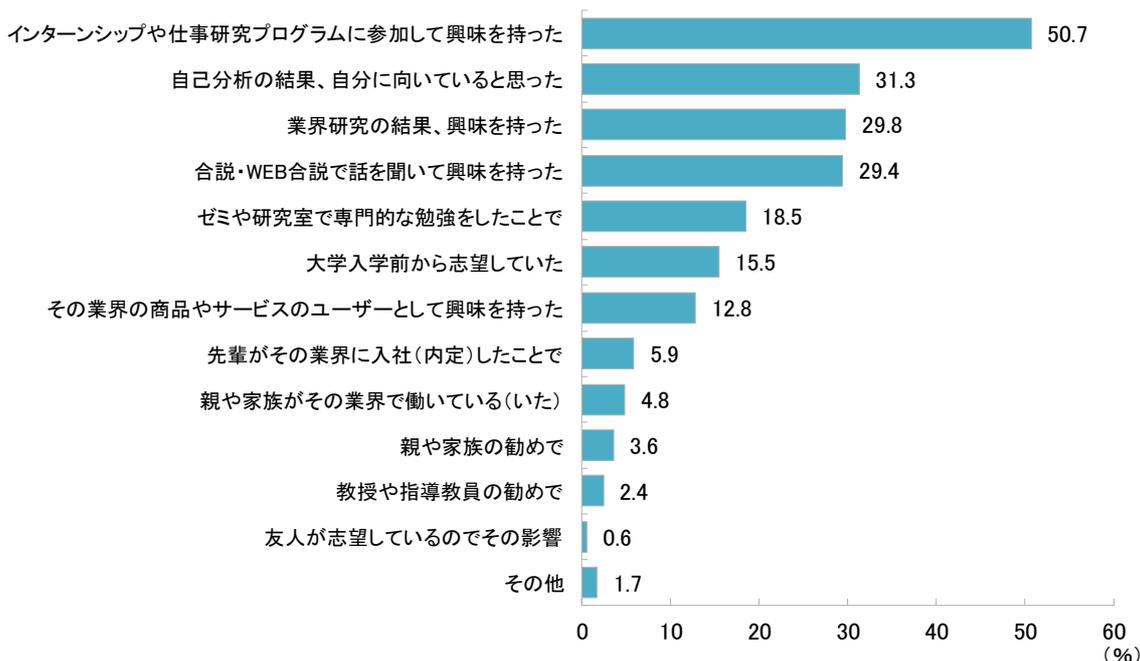
※○の中の数字は前年同期調査の全体順位20位以内

現時点で第1志望としている業界について、志望するに至ったきっかけを複数回答で尋ねた。

「インターンシップや仕事研究プログラムに参加して興味を持った」が半数を超え、圧倒的に多い(50.7%)。2位以降は「自己分析の結果、自分に向いていると思った」「業界研究の結果、興味を持った」「合説・WEB合説で話を聞いて興味を持った」が3割前後で続く(それぞれ31.3%、29.8%、29.4%)。

具体的なコメントからも、インターンシップ等のプログラムに参加したり、業界について詳しく調べたりする中で、自分の志向や適性を確認し、志望度を高める学生が多いことがうかがえる。

<第1志望の業界を志望するに至ったきっかけ>



■志望するに至った具体的なきっかけ

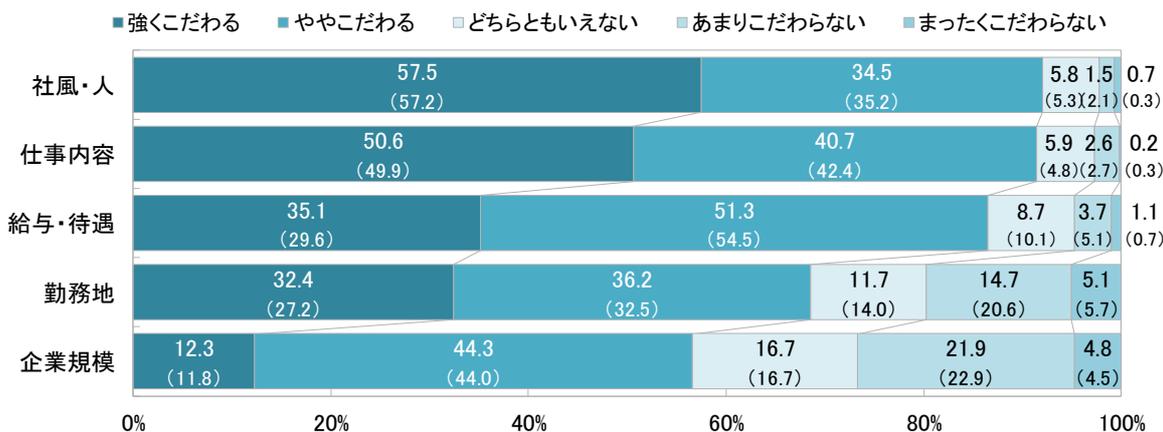
- 今後の社会ではIT業界が伸びると思い、インターンに参加して興味を持った。
 <情報・インターネットサービス志望/文系男子>
- インターンシップに参加して、そこでの実務が、自分がやりたいことや得意なことに近いと感じたため。
 <エネルギー志望/文系女子>
- 業界研究をする中で半導体業界の将来性や待遇の良さに魅力を感じた。
 <電子・電機志望/理系男子>
- 自己分析を進めていくうちに、研究を生かした職に就きたい気持ちが強くなった。また、より社会貢献度の高い職に魅力を感じ始めた。
 <建設・住宅・不動産志望/理系女子>
- 合同説明会で、もっともワクワクする業界だった。
 <情報処理・ソフトウェア志望/理系男子>
- アルバイトを通じて、思考力を活かした仕事に向いていると思ったから。
 <調査・コンサルタント志望/文系男子>
- 給与水準が高い企業が多く、調べてみたら仕事も面白そうだった。
 <素材・化学/理系男子>
- 大学に入ってから会計と出会い、勉強する中でそれを活かした仕事に就きたいと考えるようになったから。
 <銀行志望/文系男子>
- その業界で働くゼミの先輩の話聞いたのがきっかけ。
 <マスコミ志望/文系女子>
- IT系の学部なので、周りの流れで自然と志望するようになった。<情報処理・ソフトウェア志望/理系女子>

3. 企業選びのこだわり度合い

会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「社風・人」(57.5%) で、「ややこだわる」(34.5%) をあわせると 9 割を超える(計 92.0%)。「仕事内容」も 9 割超がこだわると回答した(計 91.3%)。これらを知るためにも、インターンシップ等のプログラムに早くから参加する学生が多いのだろう(詳細は後述)。

なお、「勤務地」については、「強くこだわる」と「ややこだわる」をあわせると、前年調査より 8.9 ポイント増加した(計 59.7%→68.6%)。

＜企業選びのこだわり度合い＞



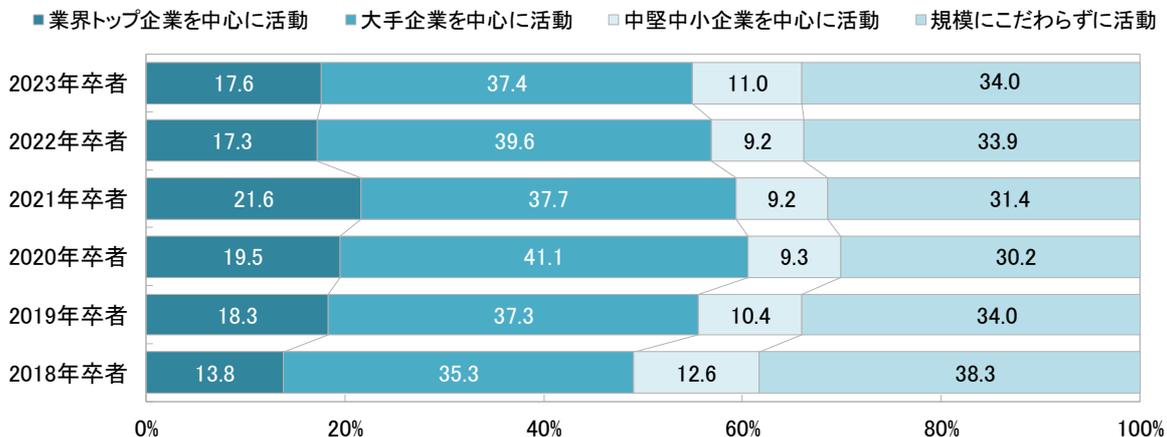
※()内は前年同期調査の数値

4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ね、経年で比較した。「業界トップの企業を中心に活動するつもり」17.6%、「大手企業を中心に活動するつもり」37.4%で、いわゆる大手志向の学生は約 6 割(計 55.0%)。上述の「企業選びのこだわり度合い」において、企業規模に強くこだわる学生は 1 割あまりだったが、大手企業を活動の中心に据える学生は依然多い。

ただし、大手志向の学生は 2020 年卒者をピークに(計 60.6%)、その後はゆるやかに減少している。一方で、中堅中小企業を中心に活動する学生や、規模にこだわらずに活動する学生は増加傾向にある。

＜活動の中心とする予定の企業規模＞

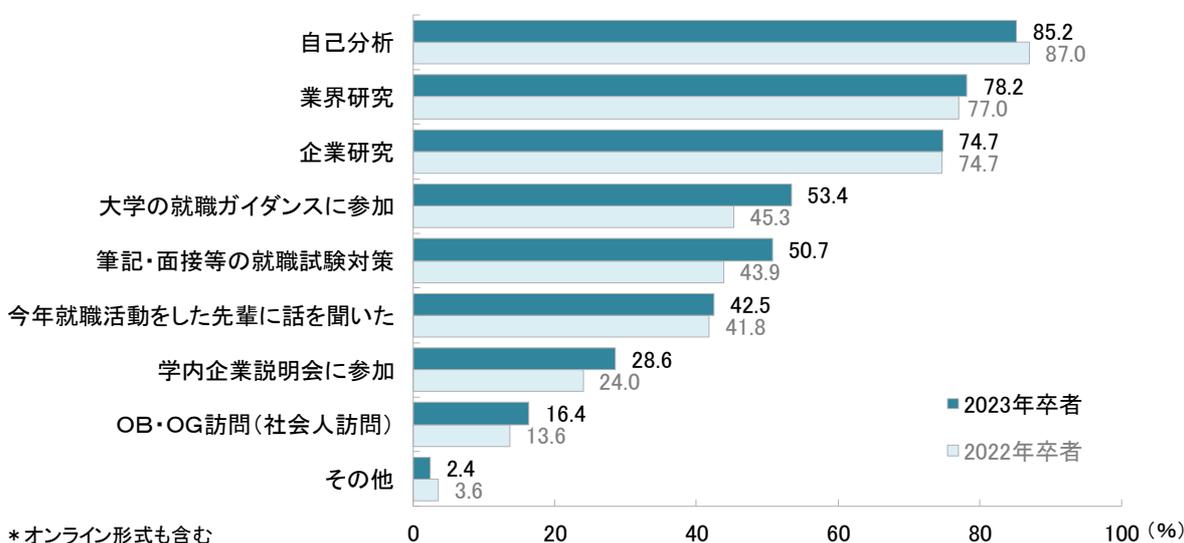


5. 就職活動準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で85.2%。次いで「業界研究」78.2%、「企業研究」74.4%と続く。前年同期調査と比較すると、「大学の就職ガイダンスに参加」「学内企業説明会に参加」といった大学のキャリア支援の項目に増加傾向が見られる。昨年度はコロナ禍で開催が見送られたケースもあったが、今年度は支援態勢が戻ってきたことが読み取れる。また、「筆記・面接等の就職試験対策」もポイントを伸ばした。

就職情報会社などが主催する就活準備イベント（インターンシップイベント、業界研究イベントなど）への参加状況を見ると、全体の9割強（95.6%）が「オンライン形式」への参加経験を持つ。「会場型」は半数強で、コロナ禍にあっても前年より増えた（50.3%→52.9%）。参加した時期は形式を問わず尋ねたが、5月・6月の伸びが目立つ。ガイダンスへの参加が増えたことも要因として挙げられる。

<就職活動準備でこれまでに行ったこと>



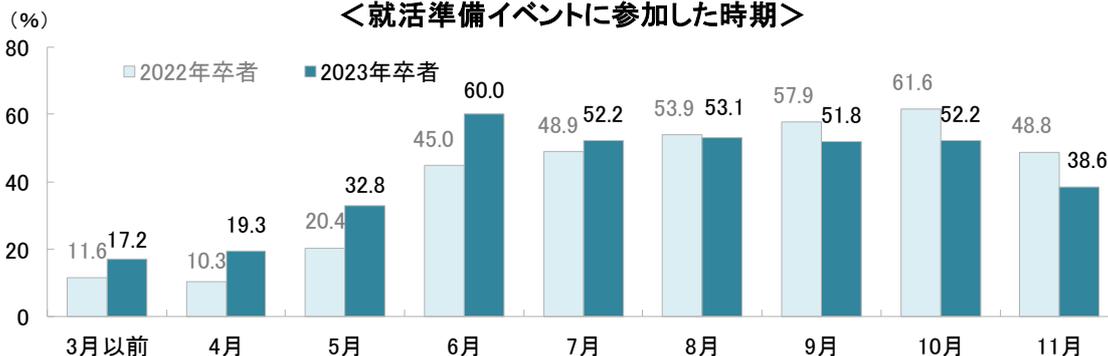
<就活準備イベントの参加経験>

	全体 (%)	(前年全体)	文系男子 (%)	文系女子 (%)	理系男子 (%)	理系女子 (%)
会場型に参加	52.9	50.3	59.9	54.2	45.1	46.4
オンライン形式に参加	95.6	94.7	95.9	95.5	94.7	97.1

<就活準備イベントの参加回数>

	全体 (回)	(前年全体)	文系男子 (回)	文系女子 (回)	理系男子 (回)	理系女子 (回)
会場型の参加回数(平均)	2.4	2.8	2.8	2.3	2.0	2.0
オンラインの視聴回数(平均)	8.6	8.5	8.6	9.3	7.8	8.3

<就活準備イベントに参加した時期>

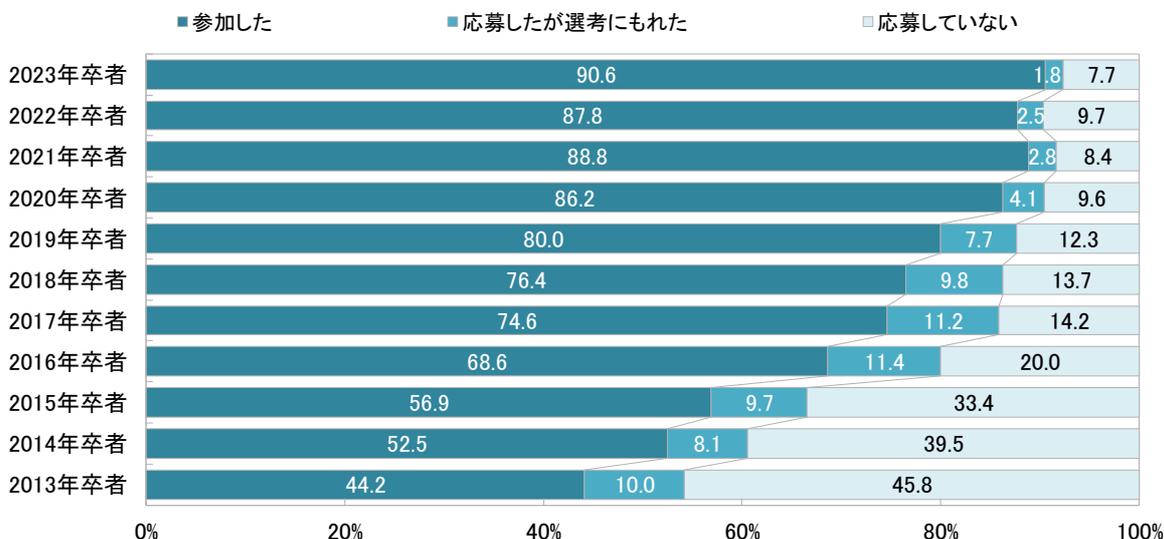


6. インターンシップ等の参加状況

インターンシップ等のプログラムへの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の 90.6% (オンラインを含む)。前年同期調査より 2.8 ポイント増加し、11 月調査としては初めて 9 割を超えた。参加社数を見ると、短期間のプログラムへの参加が多く、「1 日以内のプログラム」が平均 7.0 社で前年より 1.0 社増、「2~4 日間のプログラム」が平均 2.7 社で前年より 0.3 社増加した。「5 日間以上のプログラム」は、1.3 社と前年並みだった。対面での実施が難しい状況もあり、長期インターンシップの実施自体が減っていることが影響していると思われる。

なお、参加時期は 8 月と 9 月が 8 割前後と高く、夏季開催のプログラムに積極的に参加したことがわかる。また、6 月・7 月はコロナ禍で前年の開催が少なかった分、増加が目立つ。

<インターンシップ参加経験>

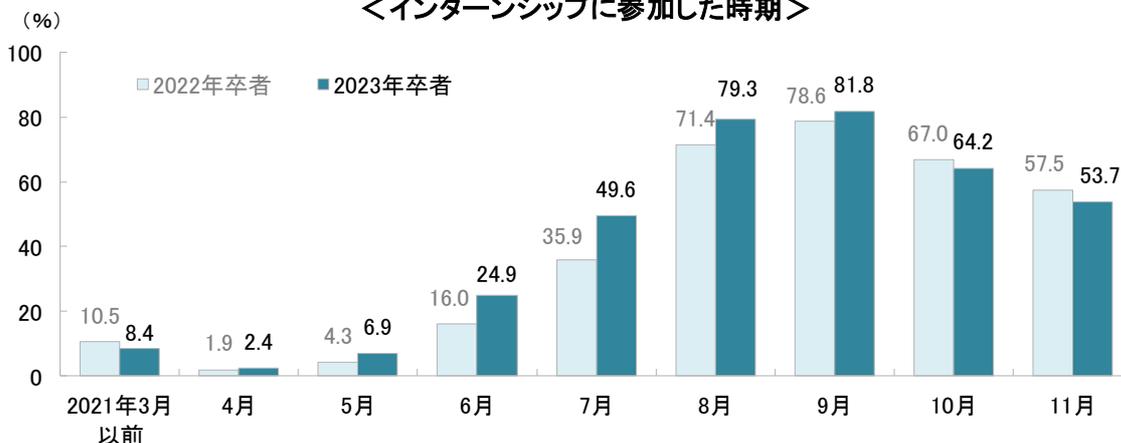


<インターンシップ参加社数/平均>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	7.0	6.0	7.3	7.6	5.9	6.7
2~4日間のプログラム	2.7	2.4	2.8	2.7	2.4	2.5
5日以上プログラム	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.4

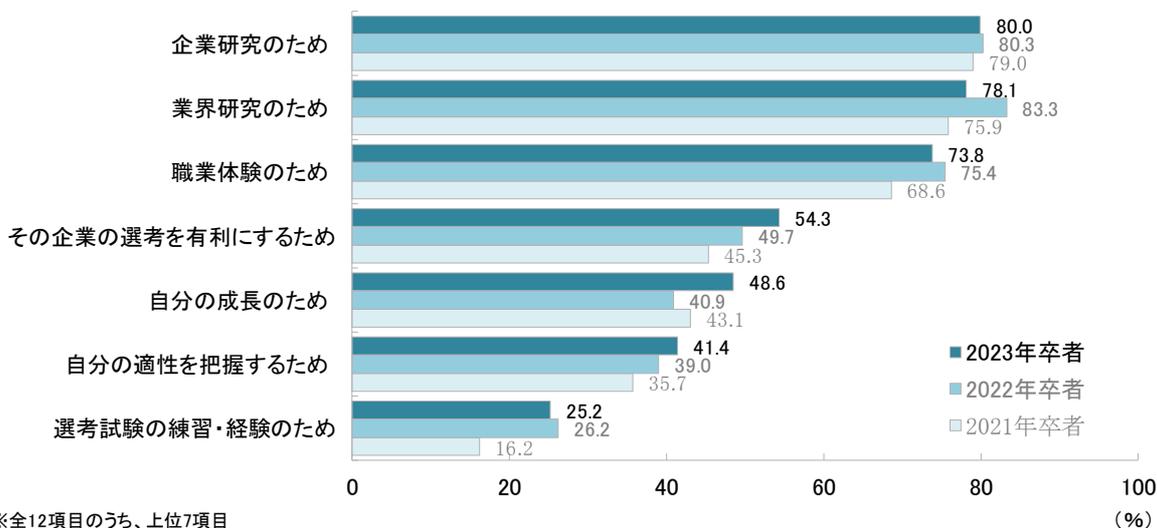
(社)

<インターンシップに参加した時期>



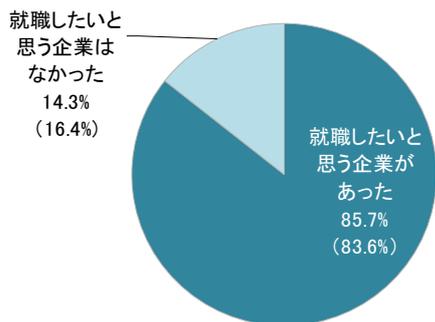
応募理由を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「企業研究のため」で8割(80.0%)。次いで「業界研究のため」(78.1%)、「職業体験のため」(73.8%)が続く。プログラムへの参加を通して様々な情報を得て、就職活動に役立てたいという学生が大半だ。また、「その企業の選考を有利にするため」は、この2年で10ポイント近く増加(45.3%→54.3%)。早期選考をはじめとした採用選考での優遇を期待する傾向が強まっていることがうかがえる。

＜インターンシップに応募した理由＞

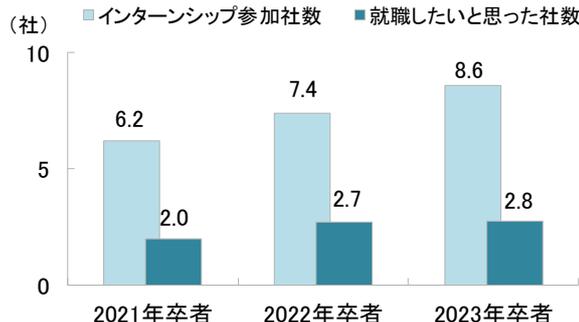


参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうかを尋ねたところ、「あった」と回答した学生は8割を超える(85.7%)。平均参加社数8.6社のうち、就職したいと思った企業は2.8社。前年と比べると、参加社数は1.2社増加したものの、就職したい企業の社数は微増にとどまった(0.1社増)。コメントからは、業務内容に加え、社員の人柄などからも判断している様子が見える。

＜インターンシップ参加企業への就職意向＞



＜就職したいと思った社数＞



■就職したいと思った理由

- インターンシップで業務に近い体験をすることができ、楽しいと感じたから。 <理系女子>
- 業務内容や社員の方々の雰囲気を知ること、具体的に就職後のイメージを掴むことができ、志望度が高まった。 <文系男子>
- 研究開発や生産現場の働き方を学び、自分が働く場面をイメージすることができたから。 <理系男子>
- 社員の人柄が良いと感じた。また仕事への姿勢を見てすごいと思った。 <文系男子>
- 若手から挑戦する風土が座談会を通して伝わってきた。 <文系女子>
- 女性の社員の方が活躍されていることを知り、安心することができたため。 <理系女子>

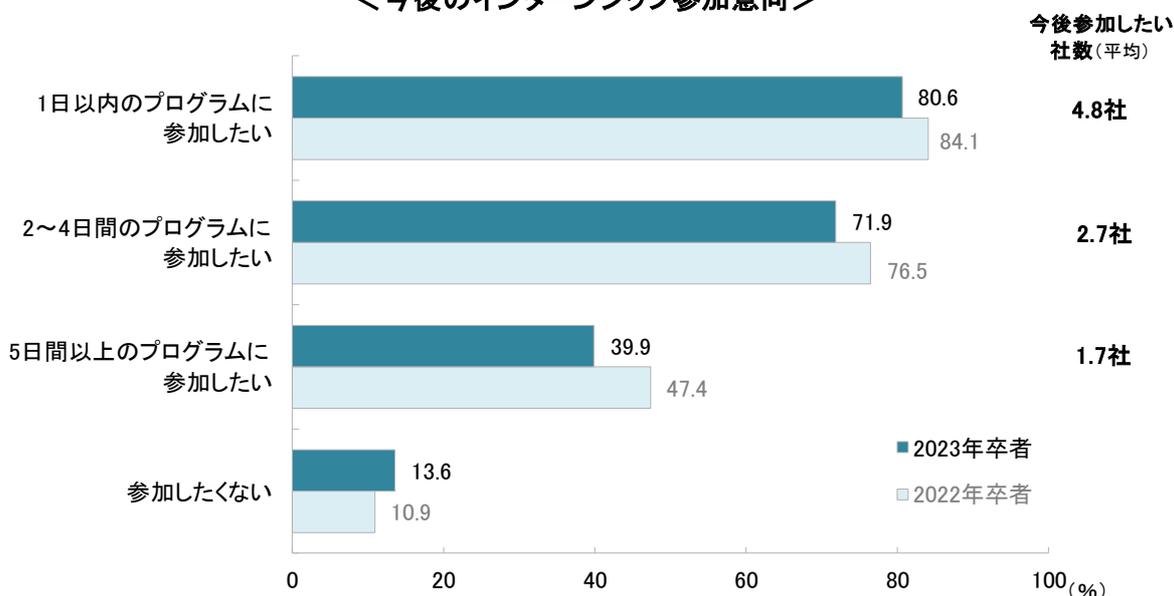
7. 今後のインターンシップ参加予定

今後のインターンシップについては、「参加したくない」と回答した学生は13.6%にとどまり、9割近くが参加の意向を示した(86.4%)。中でも、1日以内の短期プログラムへの参加意向が高く、8割に上った(80.6%)。「2~4日間のプログラム」は約7割(71.9%)、「5日間以上のプログラム」は約4割が参加を希望(39.9%)。ただし、すべての日数で前年調査を下回る。

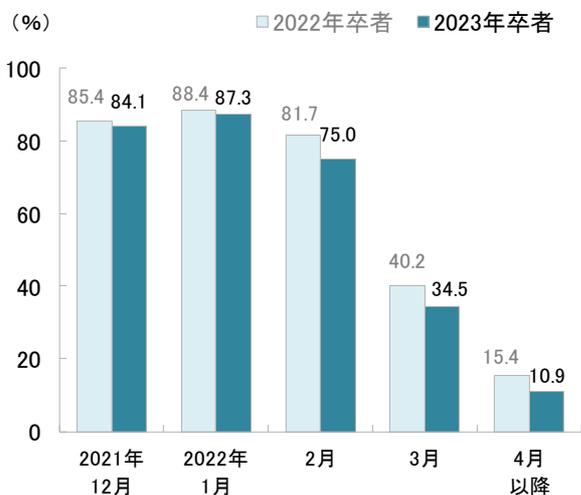
具体的に参加したい時期は「1月」が最も多く、9割近くに上る(87.3%)。その前後の時期の「12月」(84.1%)、「2月」(75.0%)もそれぞれ8割前後が選び、多くの学生が参加意欲を示した。ただし、いずれの時期(月)も前年を下回っており、早期の参加が増えた分、後半はやや減少する見込みだ。

今後参加したい形式を尋ねると、対面とオンラインの両方に参加したい学生が約8割を占めた(80.1%)。これまでの参加経験を見ると、対面形式が5割(52.3%)に対し、オンラインは96.8%で、オンラインの方が圧倒的に多かったが、対面での機会も求める学生が多いことが読み取れる。

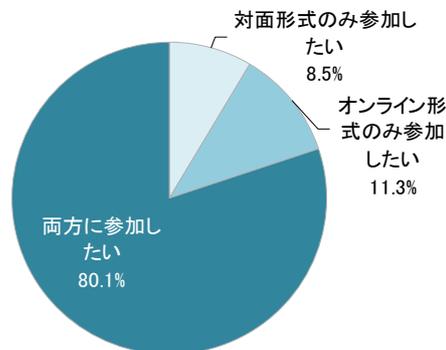
＜今後のインターンシップ参加意向＞



＜今後、参加したい時期＞



＜今後、参加したい形式＞

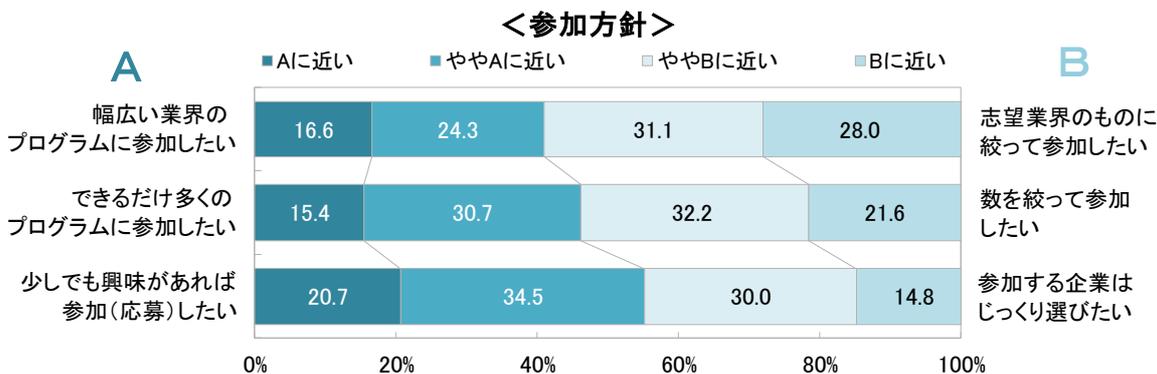


【参考】これまでの参加経験 (%)

対面形式(リアル)	52.3
オンライン形式	96.8

※インターンシップ参加経験者が分母

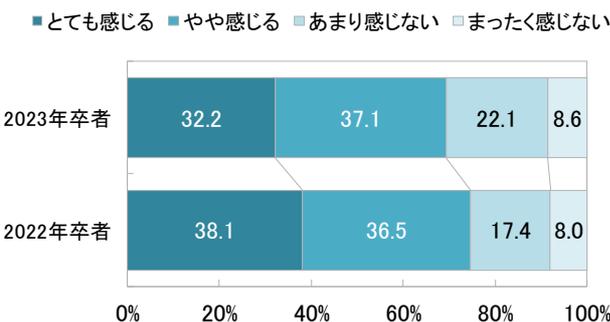
続けて、今後の参加方針について尋ねた。業界については、「志望業界のものに絞って参加したい」(計 59.1%) が、「幅広い業界のプログラムに参加したい」(計 40.9%) を大幅に上回る。ただし、「少しでも興味があれば参加したい」(計 55.2%) が、「参加する企業はじっくり選びたい」(計 44.8%) を上回り、参加数は「できるだけ多くのプログラムに参加したい」学生も 4 割強と少なくない(計 46.1%)。先に見たように、すでに志望業界を定めている学生も多いことから、志望業界の企業を中心としながらも、意欲的に参加したい学生が多いことがうかがえる。



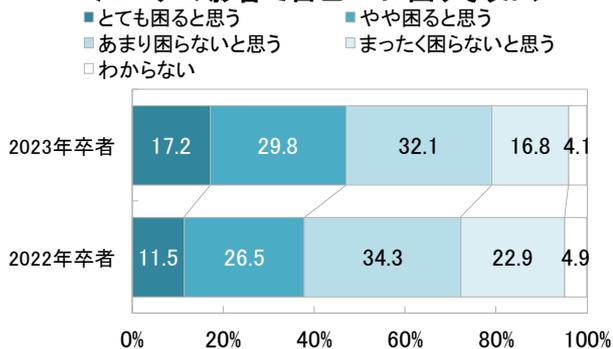
8. コロナ禍での大学生活への感じ方

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、満足な大学生活を送れていないと感じることがあるかを尋ねた。「とても感じる」(32.2%)、「やや感じる」(37.1%) を合わせると約 7 割を占める(計 69.3%)。課外活動ができない、友人や先輩との交流が減少したなど、様々な制約を受け、本来の大学生活を送れていない様子がうかがえる。それにより、就職活動での自己PRやガクチカ(学生時代に力を入れたこと)の内容に困りそうだと感じる学生が半数近くに上る(計 47.0%)。大学生活に占めるコロナ禍期間の割合が増したことで、前年の学生よりも 10 ポイント近く増加した。

<満足な大学生活を送れていないと感じるか>



<コロナの影響で自己PRに困りそうか>



■満足な大学生活を送れていないと感じる理由

- キャンパスに行って、周りの人からの刺激を受けたり、遊びに行ったりといったことを想像していましたが、そのほとんどができなかったからです。 <文系男子>
- サークル活動を通してチームで頑張る経験を積もうと考えていたのに、新型コロナの影響で全面停止してしまい、活動が再開されないまま引退を迎えてしまったから。 <文系女子>
- 友達や先輩後輩との交流がとても少なくなってしまったから。また、サークル活動やボランティア活動などができない状況が続き、語れるエピソードが少ないと思うから。 <理系女子>
- 予定していた海外研修に参加できなくなった。 <理系男子>